

学校評価

2021 年度

自己評価報告書
学校関係者評価報告書

2022 年 3 月 7 日

学校法人東京観光専門学校

目 次

1. 学校の理念、教育目標	1
2. 評価項目別取り組み状況	2
3. (1) 教育理念・目的	3
(2) 学校運営	4
(3) 教育活動	5
(4) 学修成果	7
(5) 学生支援	8
(6) 教育環境	10
(7) 生徒募集	11
(8) 財務	12
(9) 法令の遵守	13
(10) 社会貢献・地域貢献	14
(11) 国際交流	15

1 学校の理念、教育目標

教 育 理 念	教 育 目 標
<p>実社会に通用する＝仕事に就き、業界に輝く『人財』の育成</p>	<ol style="list-style-type: none">1. ビジネスマナーの徹底教育2. インプットしたことをアウトプットし、アウトカム（教育効果・成果）を上げるカリキュラムの実施3. 産学共同、イベントの推進・拡大

2 評価項目別取組状況

(1) 教育理念・目的

評価項目	評定	現状の取組状況	課 題	学校関係者評価	参照資料
□学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4	教育理念、教育目的、人材育成像は学校教育の重要な柱であり、学生ハンドブック、教員マニュアル、さらに入学式、オリエンテーション、研修会等、様々な機会を通じ、学生、教職員、保護者に対し、周知を図っている。2020年秋期より学務広報にて高校訪問を強化、あわせて教育理念、教育目的、人材育成像の周知徹底も強化されている。	各学科の輩出先となる業界が求める人材像は時代と共に変化していくため、常に業界との連携を密にし、情報を得るよう努めなければならない。	教育課程編成委員の見直しをしていくことで、最新の情報を得ていくべきである。	
□社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4				
□理念・目的・育成人材・特色・将来構想などが、学生、関係業界、保護者等に周知がなされているか	4		輩出先の業界とのパイプに比べ、保護者との連携がやや課題か。	業界 EXPO や体験授業などへの取り込みを図るべきである。	
□学科の教育目標、育成人材は、学科に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	4	また2014年度より各学科にて教育課程編成委員会を開催しており、業界の意向を踏まえたシラバスの策定ならびに産学共同に取り組むことで、各業界のニーズに合わせた人材育成を図っている。	上記第一、第二項目に同じ。	特になし。	

評価項目は、文科省の基準をベースに学校単位で定めるものです。

上記「評定」は自己評価によるもので、内容は以下のとおりです。

- 4 適切に対応している。課題の発見に積極的で今後さらに向上させるための意欲がある。
- 3 ほぼ適切に対応しているが課題があり、改善方策への一層の取り組みが必要である。
- 2 対応が十分でなく、やや不適切で課題が多い。課題の抽出と改善方策へ取り組む必要がある。
- 1 まったく対応をしておらず不適切。学校の方針から見直す必要がある。

(2) 学校運営

評価項目	評定	現状の取組状況	課 題	学校関係者評価	参照資料
□目的等に沿った運営方針が策定されているか	4	業界で活躍する卒業生の動向を捉え、業界の進む方向性など、タイムリーな情報を得ている。	業界のシームレス化を見据え、学科色の強い運営体制から学科専攻を越えた運営体制への変換が必要。「就職」を目指すだけでなく、「留学」や「進学」も見据えた運営への方向転換	業務分担の変更、職員研修の積み重ねにより、体制を変換させていくとの課題認識が評価できる。留学先、編入先の開拓の実施も必要。OBのデータ化と活用について推進していくべきである。	
□運営方針に沿ったが事業計画策定されているか	4				
□教育活動に関する情報公開が適切になされているか	4	教育活動に関する情報公開については、職業実践専門課程の申請に伴い、平成27年度よりホームページに掲載し、広く一般に公開している。	特になし。	左記に同じ。	
□情報システム化等による業務の効率化が図られているか	4	台風や交通機関の運休にともなう学校の対応などを、学生個々に事前に配信する措置をとっている。学生の出席や成績をシステムで管理して情報のアップデートと共有ができる体制をとっている。	学生への配信を徹底するに伴い、個人情報の保護の観点からオンライン情報システム上のセキュリティの徹底をはかる必要がある。担任活動に活かせる学生の顧客管理化を進める必要がある。	個人情報保護の観点からクラウドサービス化も検討中。入学前の募集から卒業までシステム統合ができることが課題であり、システム統合による解決を検討する必要がある。	

(3) 教育活動

評価項目	評定	現状の取組状況	課 題	学校関係者評価	参照資料
□教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4	職業実践専門課程への取り組み効果として、各学科で行う教育課程編成委員会で4期単位表の見直しが行われるようになり、インターンシップを含めたカリキュラムが業界の視点から俯瞰できるようになった。	授業評価の実施および評価体制のひとつとして、学生によるアンケートを実施しているが、アンケートをもとに設備投資など環境整備には活用しているが、対授業という面ではこの評価項目の見直しや、結果のフィードバックの方法に検討の余地がある。	対授業という面では質の評価を行う授業アンケートを実施。2021年後期にて、試験運用開始したことは評価できる。	
□教育理念、育成人材や業界のニーズを踏まえた教育機関としての修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確か	4	学習時間は4期単位表ならびに年間スケジュールの検討・作成過程で十分考慮され、確保されている。到達目標についても、各科目シラバスで明確にしている。			
□学科のカリキュラムは体系的に編成されているか	4	A0 プレスクールを含めた5期の観点からシラバスを策定している。	原状では特になし。	左記に同じ。	
□キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4	例えば傷害保険、ビジネスマナー、英語、救命講習など、教育課程編成委員会で出された意見を取り入れてカリキュラムを編成している。	各業界における課題解消を学生自身が目指す職業を通じてどう解消していくのかを考える機会の設定。	企業との連携強化。社会貢献活動に対する取り組みについて、具体的な運用方法（単位設定、ポイント制等を含め）を検討すべき。多様性や不確実性の中、「何のために・どのように」生きていくのか、目的意識を持てる指導をしていくべきである。	
□関連分野の企業・関係施設等、業界団体との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4	また昨今うたわれているSDGSに対する取り組みも産学共同などで取り入れ始めている			

評価項目	評定	現状の取組状況	課 題	学校関係者評価	参照資料
□関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・演習等）が体系的に位置づけられているか	4	インターンシップ等は継続的に実施できており、実践的な学びを提供できている。そうしたなかで業務提携に至る企業もある。卒業後、3年以内に退社する社員もいることから、当校でのインターンは早期退社の防止に効果がある。	現状では特になし。	左記に同じ。	
□授業評価の実施・評価体制はあるか	4	前頁でも触れたが、学生アンケートを実施している。	評価内容に検討の余地あり。	対授業という面では質の評価を行う授業アンケートを実施。2021年後期にて、試験運用開始したことは評価できる。	
□職業に関する外部関係者からの評価を取り入れているか	4	教育課程編成委員会での意見ならびに評価をいただいている。	職業実践専門課程を経て卒業した卒業生の意見等も取り入れていきたい。	教育課程編成委員会等を含め、検討を図るべきである。	
□資格取得の指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	4	業界で必要と思われる資格試験を選定し、授業で学べるよう配慮している。また、当該団体から認定校の指定をいただいている。	資格取得に向けた各学生の習得状況の進捗管理に課題	質の評価を行う授業アンケートの実施は評価できる。担当講師とのコミュニケーション強化は必要。	
□人材育成目標に向け授業を行う事が出来る要件を備えた教員を確保しているか	4	定期的な学校内研修等で対応している。今期はLGBTQに対する対応について、研修を実施。	IT環境の変化、ニューノーマル時代の企業の変化に対応できる適応力の育成が求められている。	指導する側の能力育成をはかるべきである。	
□関連分野における先端的な知識・技能等を修得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4				
□職員の能力開発のための研修等が行われているか	4				

(4) 学修成果

評価項目	評定	現状の取組状況	課 題	学校関係者評価	参照資料	
□就職率の向上が図られているか	4	コロナ禍により観光サービス業界の求人数が減少する中、就職希望者への個別対応を行っている。クラス担任と就職担任とで他業界の求人開拓をはじめ、就職率向上にむけて積極的な営業を行っている。	○留学生の受け入れ先の減少ならびに学生の多様化が顕著であり、学生個々の意欲やレベルに合わせた運営方法の検討が必要。 ○コロナ禍で採用状況を大きく変更した企業も多く、業界動向や、企業の求める人材の変化など、情報収集・分析力がより必要。	今までの学修内容だけではなく、全学科取り組む課題として IT スキルを醸成するカリキュラムや、サービススキルと IT スキルをつなぐビジネススキル、語学力を育成するカリキュラムも必要である。		
□資格取得率の向上が図られているか	4	授業のなかで資格が学べるようシラバスを策定している。2019 年度から、より就職に強い資格を重視し、学習しやすい環境を整えたカリキュラムに変更した。				
□退学率の低減が図られているか	4	今年から毎週学生状況把握のための会議を設定し、学生情報の共有や保護者への連絡、担任活動のフォローなどを行っている。		特になし。		
□卒業生・在校生の社会的活躍及び評価を把握しているか	4	学務広報を中心に一部の卒業生については把握できている。業界内でスキルアップのための転職もある。常に OB とは関りをもつようにしており、転職情報を得るだけでなく、業界の最新情報も得ている。		入学案内や HP 等に掲載される一部の卒業生以外は、卒業後の情報が当時の担任レベルで留まっており共有できていない。		卒業生にもメリットがある校友会組織の運用。卒業生情報のデータベース化は必要。
□卒業後のキャリア形成への効果を把握し学校の教育活動の改善に活用されているか	4					

(5) 学生支援

評価項目	評定	現状の取組状況	課題	学校関係者評価	参照資料
□進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4	担任制度を設けており、就職についても担任と就職情報センターと職員と連携して指導にあたっている。	就職希望率の向上や就職先の企業内容についての検討も引き続き必要だろう。	学生の自主的学習をサポートできるようなスペースが必要と思われる。	
□学生相談に関する体制は整備されているか	4	週3回「何でも相談室」を運営し、カウンセリングを実施している。カウンセリング内容は、学校長へ報告し、クラス担任と共有されている。	以前よりは利用のハードルが下がり、相談の必要な学生の訪問頻度は上昇しているが、さらに改善が必要。	認知度向上や設備面の充実も必要と思われる。	
□学生の経済的側面に対する支援体制は整備されているか	3	学内の制度としては、日本人には特待生制度を設け、留学生に対しては学費の減免を行っている。	学生の現状に合わせたきめの細かな運営方法が必要かと思われる。コロナの影響もあり、支援が必要な学生も多い。	要検討	
□学生の健康管理を担う組織体制はあるか	3	健康診断は基準通り実施している。体力増進の一環から、コロナなどの影響がない場合、年に一度スポーツ大会も実施している。	保健室はあるが、現状では設備的に不十分かと思われる。今年度もスポーツイベントは実施できなかった。 学生のメンタルケアへの体制が不十分	保健室管理の担当者を置く。メンタルケアが大切。オンラインでカウンセリングも一案。カウンセリング室の利用頻度を上げていきたい。カウンセラーへの接触のストレスを低減すべき。メンタルケアを含む学生相談にはオンラインを取り入れるべき。植物や一見関係のないアイテムの配置も要検討。	

評価項目	評定	現状の取組状況	課題	学校関係者評価	参照資料
□学生寮等、学生の生活環境への支援は行われているか	3	提携マンション、提携寮を斡旋している。留学生には学園で所有している女子寮も活用。	現状で十分とは思われないが、学生の好みも多様化しているため、要検討課題。	オープンキャンパスのオンライン参加者への案内の充実が必要。	
□保護者と適切に対応しているか	4	保護者には期ごとに成績表などを配布し、学生の現状を連絡している。また、出席不良の学生については、個別に保護者への連絡を行っている。本年連絡ツールを更新し、書面配布をアプリ上で実施するように変更。	コロナ陽性者の発生や学校対応の連絡など、内容や発信が難しい状況が増えている。また、保護者も様々で、学生への無関心、あるいは全ての責任を学校に求めてくるなど、昨今では対応に苦慮する場合あり。	さらに保護者との連携を図っていくべきである。	

(6) 教育環境

評価項目	評定	現状の取組状況	課 題	学校関係者評価	参照資料
□施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるよう整備されているか	3	学内環境改善や教育効果向上のため、計画・予算化し適宜、施設や実習設備の改修を実施している。	教育課程編成委員会などの意見を参考に、各学科の実習設備をなるべく実勢に合わせたものに維持していく。設備面での学内生活の環境改善も必要。	特になし。	
□学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4	実習設備については上記のとおり。コロナ禍により昨年度は実施できなかった韓国留学は実施中。英語はオンライン授業とアプリの活用を実施。インターンについては、各学科とも実施済み。	コロナの感染状況により留学もインターンシップも安定した受け入れ先を確保できなかったため、実施方法や教育効果にバラつきがでた。	留学についてはオンライン活用を強化、インターンシップについては企業との連携をこれまで以上に行っていくべきである。	
□防災に対する体制は整備されているか	4	校舎の耐震工事は済み、緊急時の食料と水を人数分備蓄している。防災訓練も実施している。	特になし。	左記に同じ。	

(7) 生徒募集

評価項目	評定	現状の取組状況	課 題	学校関係者評価	参照資料
□高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組を行っているか	4	接続する教育機関に対する情報提供は重要であり、学校説明会やガイダンス等を通じて行っている。	特になし。	左記に同じ。	
□生徒募集活動は、適正に行われているか	4	学生募集には全教職員が参画意識をもって取り組んでおり、学生募集目標を設定し、達成することは学校運営上特に重要である。			
□生徒募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	4	在校生の資格取得や就職情報については、学生の承諾を得て実名や出身校を掲載し、正確な情報開示に努めている。			
□入学選考は、適正かつ公平な基準に基づき行われているか	4	筆記試験ではなく内申書の確認で合否を決定している。 AO入学でサービス業の適性のある学生の取り込みを図っている。			

(8) 財務

評価項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	学校関係者評価	参照資料
<input type="checkbox"/> 中長期的に学校の財政基盤は安定しているといえるか	4	入学者の安定確保が財務基盤の安定には不可欠であり、全職員で同じ意識を持って取り組んでいる。	特になし。	左記に同じ。	
<input type="checkbox"/> 予算・収支計画は有効かつ妥当なものとなっているか	4	収支予算の予測、支出状況の把握につとめ、バランスのとれた収支状況の実現に努力している。			
<input type="checkbox"/> 財務について会計監査が適正に行われているか	4	行われている。			
<input type="checkbox"/> 財務情報公開の体制整備はできているか	4	ホームページ上に掲載している。			

(9) 法令の遵守

評価項目	評定	現状・具体的な取組等	課 題	学校関係者評価	参照資料
<input type="checkbox"/> 法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4	法令及び専修学校設置基準を遵守し、適正な学校運営を行っている。 また、コンプライアンス委員会を学園本部に立ち上げ、適切な運営を継続している。	特になし。	左記に同じ。	
<input type="checkbox"/> 個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4	情報管理については、教職員及び学生の個人情報の取り扱いには最新の注意を払い、適正に管理を行っている。			
<input type="checkbox"/> 自己評価の実施と問題点の改善に努めているか	4	努めている。			
<input type="checkbox"/> 自己評価結果を公開しているか	4	ホームページ上に公開済み。			

(10) 社会貢献・地域貢献

評価項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	学校関係者評価	参照資料
□学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っている	3	特に行っていない。	地域に対する公開講座や教育訓練については、地域にとって必要かどうかも含め、今後の課題として取り組んでいきたい。	夜間の時間帯を活かした職業訓練実施の可能性を模索することも必要。地域向けの学習会を実施し、公表することも検討していくべきである。	
□学生のボランティア活動を奨励、支援しているか	4	オリンピックの会場誘導、のイベントにて駅から会場までの誘導を行っている。 選手村での食事提供サポートなどを行った。	地域のボランティア活動への参画を検討したい。	ボランティアの単位認定が継続的な取り組み課題となっている。取り組むべき課題である。	
□地域に対する公開講座、教育訓練（公共職業訓練等）の受託等を積極的に実施しているか	3	特に行っていない。	要検討	HP 上で公開講座を募集するなども要検討。	

(11) 国際交流

評価項目	評定	現状・具体的な取組等	課題	学校関係者評価	参照資料
□留学生の受け入れ・派遣について戦略をもって国際交流を行っているか	4	適切に運営されており、問題ない。	特になし。	互いの価値観を尊重し、理解する必要がある。その一環として留学生と日本人をペアにした活動も案である。	
□受け入れ・派遣等において適切な手続き等がとられているか	4				
□学習効果が国内外で評価される取組を行っているか	3	交換留学の実施を検討中。	海外の卒業生とのネットワークを構築する。		
□学内での適切な体制が整備されているか	3	国際センターを設置して対応している。	文化の違いにより授業態度に問題が見受けられる。異文化理解がこれまでに以上に必要。		